

世界的に活躍した音楽写真家・故木之下晃先生(本学卒業生、元客員教授)が、茅野市美術館(長野県)で始められた「寿齢讃歌ー人生のマエストロー写真展」。

マエストロとは、イタリア語で、名指揮者など芸術の巨匠に対し、尊敬を込めて呼ぶ敬称です。カラヤンや小沢征爾など、数多くのクラシック音楽家のマエストロ(巨匠)を撮影して、高い評価を受けた木之下先生。

世界的なマエストロだけでなく、人生を積み重ねてきた高齢者も、それぞれが人生の“マエストロ”。普通のマエストロたちを「写真を通じて輝かせたい」、「写真に写る景色・風景を時代の遺産として次世代に継承したい」という思いで始められたのが、この「寿齢讃歌(じゅれいさんか)」です。

第1回目の開催は 2006 年。木之下先生が亡くなられた後も、そのミッションは引き継がれて毎年開催され、本学も、本学がめざす福祉文化創成の理念と軌を一にするものとして、2010 年の第4回目から協賛を続けてきました。今年も9月に 19 回目の開催が決定しました。

この写真展の素晴らしさは、もちろん応募された作品そのものに凝縮されていますが、もう一つは最初から一貫して、市民協働で実施されていることです。美術館を支える市民サポーターの皆様が、美術館と共に毎年、企画・製作・運営にあたられ、地域文化創造の市民協働モデルの模範として、他地域から茅野市美術館ならではの取り組みと称賛されています。

このたび茅野市美術館より、昨年開催された『寿齢讃歌ー人生のマエストロー18』で展示された、過去17回の作品データ及び資料の一部をお借りして「寿齢讃歌ー人生のマエストロー写真展そのあゆみ」を、ここ東海キャンパスで開催させていただくこととなりました。こうして本学での展示をご許可いただきましたことを心よりお礼申し上げます。また、企画協力いただきました木之下晃アーカイヴスにも感謝申し上げます

学生・教職員の皆様、東海キャンパスにお越しいただいた皆様に、この写真展の素晴らしさを感じ取っていただけますと幸いです。